

## 新聞を活用した歴史学習

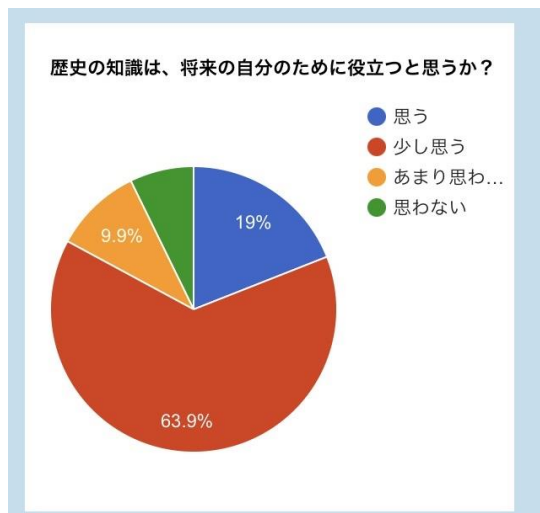
東京都立墨田川高等学校

中央 佑斗・玉腰 隆幸・西山 椋子・永田 えり夏・坂口 克彦

## 1 はじめに

本校は、東京府立第七中学校として設立以来、今年度102年目を迎え、進学重視型単位制高校及び進学指導推進校として、国公立大学や難関私立大学への進学の実現に向けて、新たな学びに取り組む学校である。

本実践は、1年生(319名)に対して、必修科目「歴史総合」の授業を中心に実施した。年度当初に「歴史の知識は将来の自分のために役立つと思うか?」というアンケートを実施した。



「思う・少し思う」と回答した生徒は「常識ある大人になりたいから」「同じ過ちを繰り返さないため」などの理由を挙げた。「あまり思わない・思わない」と回答した生徒は「時代は変わっているから」「政治家になるなら必要だが、私はならないので必要ない」などを理由にした。

これを受けて、「時代が変わっても変わらないこともあるのでは?」「政治家だけが政治に関わるものなのか?」と生徒の見方に対して既存の見方に揺さぶりをかけたいと思い、「新聞」を活用した歴史学習の実践を行った。

## 2 実践内容

(1) 新聞コンクールへの参加と振り返り  
夏休みの期間を利用して、1年歴史総合受講者、2年日本史探究受講者中心に、約450名が「いっしょに読もう!新聞コンクール」への参加を行った。

また夏休み明け最初の授業で、自身の取り組みを振り返るアンケートを実施した。

## ・アンケートの内容

- Q1 なぜあなたはこの記事を選びましたか?  
Q2 今回の活動で、「社会への気づき」はありましたか?  
Q3 テーマについて「考えを深める」ことはできましたか?  
Q4 取り組んだ感想を教えてください。

## ・生徒の回答

**生徒Aの回答** 「異種移植」将来性と課題  
→ 私はこの記事を読むまでブタの臓器が人間に移植されたことを知らず、読んでいた時も偏見で嫌だと思っていた。最後まで読むと、ブタからの移植がドナーを待つ患者さんにとって希望の光になることを実感できた。

**生徒Bの回答** 「カジュアル制服がめっちゃクール」  
→ 自分だけでは思いつかなかった考えを父から聞き、大人目線の意見を聞くことができた。そのため、記事をたくさんの目線から読むことができ、新たな考えを書くことができた

Q2、Q3で肯定的な回答をする生徒は約9割に上り、感想でもやってよかったという回答が多かった。また生徒Aのように新たな情報と出会い、考えが大きく変わる生徒や、生徒Bのように異なる年齢層からの視点を得て、考えを再構築する生徒が見られた。新聞コンクールの目的の1つでもある「社会の課題への気づきを促す」「考えを深める姿勢を促す」は実現できていたと分析した。

今年度は、東京都最優秀高等学校賞と全国優秀高等学校賞を頂くことができた。次年度も事前学習、事後学習を工夫して、コンクールへの参加を実施していきたい。

## (2) 歴史総合での新聞活用①

～問いづくり～

1年次生歴史総合の授業において、「グローバル化と私たち」の学習前に、「問いづくり」をテーマとした以下のような学習活動を行なった。

Q 10～11月の新聞記事を読んで、

- ① イスラエルやガザ地区「中東問題」
- ② 中国と台湾の問題
- ③ ロシアーウクライナ戦争

に関する記事のいずれか1つを見つけ、タイトルと読んだ感想、抱いた疑問などを書いてみよう！



(写真1：活動の様子)

## A 生徒から出た回答

- ① イスラエルとイランの関係性は？
- ② なぜ中国は「一つの中国」にこだわるのか？
- ③ なぜ北朝鮮がロシアに派兵しているのか？

A①は歴史総合の授業で第一次世界大戦や中東戦争などの歴史を学ぶことで理解することができる。A②も国共内戦などの歴史を学ぶことで理解出来る。このように生徒から出た問いを1月からの授業の問いに設定してみようと思う。

また実践を行っていく中で、「現代の課題について考える時、歴史の知識を踏まえて考えることが重要である」ということを生徒に気づかせたい、と考えるようになり、次の(3)の実践を行なった。

## (3) 歴史総合での新聞活用②

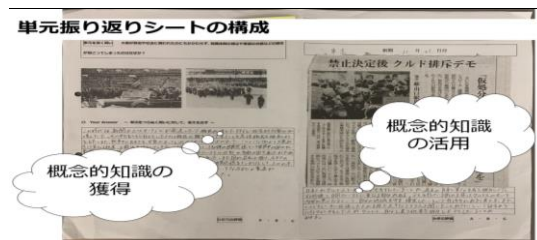
～単元のまとめ～

私は歴史総合の授業の中で育てたい力として以下の2つを設定している。

**力①**「過去の事件や事象を抽象化し、概念的な知識を獲得する力」

**力②**「獲得した概念的な知識を活用して、現代私たちの社会が抱える問題について考えられる力」

力①②の達成を目指して、単元学習の終わりに「単元振り返りシート」を用いた次のような学習活動を行なった。



まず、単元を貫く問い「大衆が政治や社会にかかわれたのにも関わらず、独裁体制の確立や軍部の台頭などの歴史が起こってしまったのはなぜか？」について、授業で学んだことを活かして自分の論述を完成させる。この活動を通して、「大衆社会の特徴」「ファシズム」などの概念的知識を獲得する。

次に、「そのような歴史は繰り返されていないだろうか？繰り返されていると判断した記事を1つ見つけ、そう判断した理由を書け」という課題に取り組み、概念的知識の活用を目指した。



(写真2：活動の様子)



(写真3：教室の横に置いている新聞キッド)

↑ 班員は写真3の場所から、各教室に新聞の入った紙袋を持っていき、活動する。



(写真4：教員による机間支援)



(写真5：タブレット端末を使用する生徒)

↑ 写真5のように、新聞記事を読んでわからなかったことについて、端末を使って調べる生徒もいた

#### 生徒の記述 A 「米新政権、歯止め役不在(日経 11/24)」

世界恐慌になると、経済が悪化し、失業者が増えた。すると、議会制民主主義では様々な意見を一つにしてやっと動くため、遅いと大衆の不満が募った。軍は一部の人々で政治を行うことで早く政治を進めることができるため、軍事化が進み、独裁体制がとられた。

トランプ次期大統領は、自身を支えてきた「忠誠心」と自身の意向である「米国第一」の政策の忠実な実行を託せるイエスマンをそろえた。自身の意向に沿わない米軍幹部の一斉解任も検討しており、暴走した場合に制止できるような人物は見当たらない。様々な意見ではなく、一つのまとまった意見で話し合うため、意見の違う人たちの意見が反映されづらくなり、独裁的になってしまう可能性がある。

#### 生徒の記述 B 「1票の価値を信じますか？朝日 11/16」

大衆は政治的無関心に陥りやすいという特徴を持つ。記事の中の「一票の価値を信

じない」とした人のなかに「ただ投票率を上げるためだけに投票に行く」という人がいて、政治に無関心な人が多いということが繰り返されていると思う。

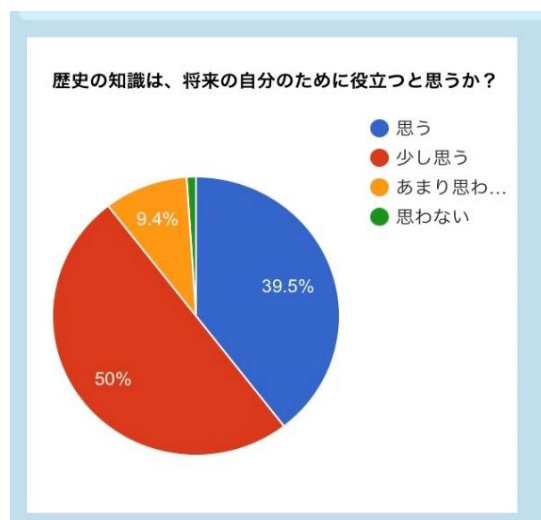
生徒 A は、議会制民主主義の否定というところに過去と現代の共通性を見出した。生徒 B は大衆が政治的無関心に陥りやすく、その特徴を政治家に利用されてしまうこともあるというところに共通性を見出した。このように、過去の事象を抽象化し、現代との共通性について考える活動を年間で3回行った。この活動を通して、歴史総合において身につけさせたい力が育めたように感じる。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

まず新聞コンクールとその後の振り返りを通して、関心を持ったテーマについて自ら調べたり、他人との対話を通して自身の考えを深めたりすることができた。これによって、主体的・対話的で深い学びが実現できたと実感している。

そして歴史総合においては、生徒の歴史学習の印象が変化したように思えた。年度当初に行なったアンケートを12月に再度行なったところ、以下のような結果になった。



「思う・少し思う」と回答した生徒の理由は「授業で学んだことが現代でも繰り返されている」「歴史で学んだ過去の人の動きは、現代に通じることが多い」といった理由を挙げる生徒が多かった。これは新聞を活用したことで、授業で学んだこと（歴史）と現代の事象（新聞）の共通性に気づかせることができたと分析する。これが「歴史を学ぶことが将来に役立つと考える」生徒が増加した要因に思える。

#### (2) 課題

今回の歴史総合における新聞活用の取り組みは年間授業数の関係で、作成した振り返りシートの生徒同士の共有や相互評価などを行うことができなかった。限られた年間授業数を調整し、歴史の授業内でどのように新聞を活用するか、が課題である。

また、今年度の取り組みは他の教科や学校全体への取り組みには発展しなかった。新聞活用の取り組みを持続可能なものにし、学校全体で取り組んでいくことも次年度以降の課題だと感じた。